

和田明子議員の6月県議会での質問と答弁の要旨を紹介しします。一般質問、答弁の全文はホームページの「議会の様子」からご覧いただけます。



＊ ＊新型コロナウイルス感染症対策について＊ ＊

和田 コロナ受け入れ病床の増床は、医師・看護師などスタッフの確保が必要になる。ワクチン接種の医師・看護師確保と通常医療の提供などを両立させる見通しと県の対策は。また、医療機関の経営状況を把握し、国に減収補てんを求めている。

健康福祉部長 医療従事者等の処遇維持や離職防止は特殊勤務手当への助成などで支援している。ワクチン接種の人材確保にむけ、医師会など諸団体一丸となって募集。看護職は県ナースセンターの体制強化で、潜在看護師の掘り起こしなど再就職に結びつける。
知事 国には、医療機関にしっかりと支援を行うよう求めている。

＊ ＊生理の貧困とジェンダーについて＊ ＊

和田 男女共同参画推進本部は、知事を本部長に副知事や関係部局長で構成されているが、昨年度は女性が1名のみで今年度は0名である。この現状をどう考えるか。

知事 推進本部に女性の数が少ないことで機能が果たせないというものではない。むしろ問題は、県の幹部職員に女性が少ないことだと思う。

和田 コロナ禍で、生理の貧困が顕在化している。県立高校では、生徒等の実情に応じた相談対応や生理用品を提供することだが、生理用品の提供は当たり前前にトイレに設置し、必要に応じて使えるようにしていただきたい。

教育長 生理用品が用意できなくて困っている子どもたちに、気軽に養護教諭等に声をかけてもらい、言葉を交わす中で生理用品を提供する仕組みとしている。

和田 必要としている生徒の側に立って対応してほしいと要望。

＊ ＊凍霜害への支援と共済制度・収入保険について＊ ＊

和田 今年4月の凍霜害の被害農業者に、営農意欲が持てる経済的支援などはどのように行うのか。収入保険は青色申告が条件だが、白色でも加入できるよう条件の緩和を。また、基準収入の設定を災害やコロナ禍による大幅な減収の考慮など、収入保険の加入につながるよう国に求めている。

農政部長 被災農業者には営農を継続できるよう支援策を検討する。収入保険制度は制度の課題を整理して、加入促進につながるよう国に要望していく。

＊質問を終えて＊

4月の凍霜害による被害額は6月3日時点で約20億円。被害額以上に生産者のダメージは大きいものです。災害で心が折れそうになっている農家を経済的に支援することを引き続き要望していきます。

※「米の需要調整について」も質問しました。

